

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第4号 畜産

発行日 平成27年6月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 二番草の刈り取りは、適期に行いましょう。刈り取り高さが低くなりすぎないように！
- ◆ 更新後草地の状況によっては簡易更新で植生改善をする！
- ◆ 暑熱対策のおさらいを！泌乳牛は一度体力を落とすとなかなか元には戻りません。

1 飼料作物

(1) 二番草の収穫など

ア 二番草の収穫

収穫時期は、一番草収穫後から 40～55 日が目安です。土壌及び牧草の水分が高く、気温の高いこの時期は、牧草が蒸れ上がり易いので、刈り遅れないようにします。

また、極端な低刈りは、地温の上昇から高温障害を受ける恐れがあります。

刈り取り高さは 10～15cm (握りこぶし1つ分ぐらい) とします。

イ 収穫後の施肥

三番草の生育促進のため、二番草収穫後、できるだけ早く施肥します。施肥量は、10a あたり窒素 5kg、リン酸 2.5kg、カリ 5kg です。尿散布を行う場合は、肥料焼けを防ぐため、曇天や降雨前後に行いましょう。

ウ チモシー1番草刈り取り後施肥の重要性

チモシーは一番草刈り取り後に新旧分けつの世代交代をおこないます。よって新分けつ発生を促進させ、翌年の多収を実現する上で一番草刈り取り後の施肥は極めて重要です。この時期の施肥を省略してしまうと新分けつ発生量が減少し、茎数密度が維持できず翌年の収量が減少します。

(2) 完全草地更新の失敗を補う簡易更新

裸地や雑草が多い草地では、草地更新を行うことで、収量の確保や栄養価の向上が期待できます。しかし、完全草地更新後も牧草が定着できず雑草や裸地が多い草地となってしまった場合は、追播により植生改善が可能なので早急に対策を打ちましょう。

ア 簡易更新による追播

夏の暑さと雑草の草勢が弱まる時期(概ね盆明け～9月上旬)に簡易更新により追播を実施すると完全更新でうまくいかなかった圃場を改善できる場合があります。

下写真は平成25年春に完全草地更新を実施した後、干ばつにより牧草が定着せず雑草が多くなってしまった草地ですが、平成26年秋に簡易更新を実施しうまく改善できた事例です。

写真1



簡易更新による追播前の草地
(平成26年9月29日)

写真2



裸地に新たに定着した牧草
(平成27年5月9日)

(3) 飼料用トウモロコシのクマによる食害防除

ア 電気柵は早めに設置し、必ず通電させておきましょう（昼夜問わず）。

お盆前には必ず設置、通電を！！7月中にできればなお良いです！！
被害にあってから・・・では手遅れです！！

トウモロコシの草丈がまだ小さいうちだと電気柵の設置作業もラクになります（写真3）。

イ 電圧は通電時に最低5,000ボルト確保できるような電牧器本体を選択しましょう。

電圧は定期的にチェックし、電圧が維持されているか確かめましょう！！

正常時の電圧を電牧器本体に記録しておくと異常に気づきやすくなります。（写真4）

ウ 圃場周辺のクマの侵入経路（竹やぶ、ススキ）を刈り倒し、見通しをよくします（写真5）。

圃場の外周の見通しが悪いとクマに電気柵を視覚的にアピールするための効果が低下します（電気柵は痛いものという学習効果が低下）。

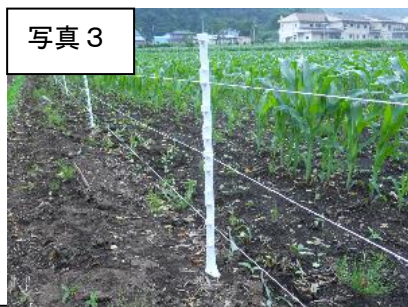


写真3

トラクター作業が終了後、早めに設置して通電開始！！



写真4

設置日と電圧を記録



写真5

大事なのはクマに電気柵を認識させ、接近しないことを学習させること！！

2 暑熱の影響の緩和

(1) 牛舎内温度、牛の体感温度を上げないようにします。

輻射熱や直射日光（西日）の遮断、換気・送風量の確保に気をつけてください。

泌乳牛は夏に体力が低下すると涼しくなってもすぐに体力は元に戻りません。

(2) 飼料と水に注意します。

新鮮な水を十分に飲水できるように、給水量の確認と、水槽のこまめな掃除を行います。つなぎ牛舎で夏場にウォーターカップ（WC）での水遊びが頻繁に観察できる場合はWCの掃除をおこない、臭いや汚れを取りましょう（特に押しベラの裏も念入りに！）。

また、嗜好性の良い粗飼料の給与に努めます。嗜好性の良い飼料（配合飼料やビートパルプを水で戻したものなど）をふりかけるなど、採食意欲を高める上で有効です。

(3) 採食量の低下を最小限にしましょう。

外気温が低い夜間から早朝にかけて採食を促すよう、就寝前のエサ押しや給与時間などを検討しましょう。

(4) 粗飼料の摂取量や乳量・乳成分の低下への対応

ア 粗飼料の摂取量、反芻回数と唾液分泌量が減少するため、配合飼料の給与量の多い搾乳牛では、ルーメン pH 低下によるアシドーシスが懸念されます。配合飼料の給与回数を増やす（少量頻回）、重曹（100～200g/日・頭）の給与などを行います。

イ 発汗の増加により、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、カルシウム、リンなどのミネラル要求量も通常の10～20%増加します。乾乳後期牛を除き、鉍塩を切らさないようにするとともに、重曹やリン酸カルシウムを増給します。



写真6

暑さを防ぎ、牛が喜ぶ管理をしましょう！！

**6月1日～8月31日は
農薬危害防止運動期間です**

- 近隣住民・周辺環境に配慮しましょう
- 農薬散布準備、作業中・後の事故に注意しましょう
- 農薬の保管・管理は適切にしましょう

次回の発行予定日は7月30日（木）です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しています。発行年月日を確認のうえ、最新の情報をご利用ください。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。